

アメリカコハクチョウ「クロチャン」一族の 今期の渡来状況

村瀬美江

024-0012 北上市常盤台2丁目2-17

2004年の北上へのハクチョウ渡来は、10月17日で、オオハクチョウ2羽、コハクチョウ26羽で始まりました。「クロチャン」一族は、2003年より11月に入らないと飛来せず、11月4日新堤に「クロチャン」の孫一家「ゾロ」、「マーラ」の成鳥2羽と幼鳥2羽、計4羽で10時40分に目の前に着水しました。11月5日大堤に「クロチャン」の子一家「エミー」、「ダダ」の成鳥2羽と幼鳥4羽、計6羽で飛来し、その他に「クロチャン」の子2羽、孫2羽がいました。11月9日に新堤へ孫の成鳥2羽と幼鳥3羽、計5羽、その他に子1羽、孫3羽が飛来しました。11月10日新堤に「クロチャン」の子「ハッチ」成鳥1羽と幼鳥3羽が飛来しましたが、雌「ミカ」の姿がなく、心配でした。この他に孫2羽には今期に子がいませんでした。このように、次々に渡来してきました。全部で8家族、幼鳥19羽と番7組、今期子なしの組、その他若鳥20羽が渡来越冬しました。

1月20日過ぎても「クロチャン」の姿はなく、連続18年、19回の渡来記録は終止しました。「クロチャン」の初渡来は1986年3月18日のことで、1羽でした。北帰は4月18日で、30日の滞在でした。2回目は1986年10月23日で、「クロチャン」と番になった「カアサン」と一緒に渡来し、北帰は1987年4月15日でした。3回目は渡来が1987年10月23日で、「クロチャン」、「カアサン」の成鳥2羽と幼鳥2羽で、

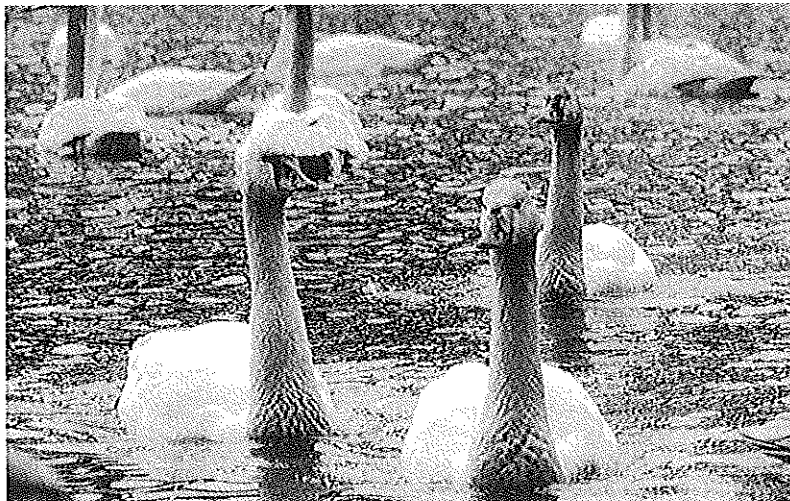


図1. クロチャン、カアサン、シュウ(2003年生まれ、クロの子)、2004年3月31日。

幼鳥連れで越冬しました。その後、2003年まで毎年子連れで渡来し、越冬しました。ただ一度、1994年には番だけ2羽で渡来越冬しました。このように、同一地点に連続して渡来越冬した記録は、「クロチャン」だけ唯1羽で、渡来したときから18年間で子52羽、孫73羽、ひ孫70羽、ひこ孫7羽、嫁婿17羽、計219羽の一族となりました(2005年1月現在)。

2005年1月中旬に例年通りに池の凍結が始まり、「クロチャン」一族は他の場所に移動しました。前年からの行動ですが、私が朝の池の氷割りが出来なくなり、また餌の青米やしいななどを運べなくなり、食パンだけの給餌となったためとおもわれますが、それまでは給餌の時間に合わせて飛んできておりました。食べ終わると、一休みして田んぼに出かけました。氷が融け始めると、様子を見に池に戻ってきました。3月も10日になると、北帰のさいの立ち寄りも多くなり、3月26日には「エミー」、「ダダ」の成鳥2羽と幼鳥4羽が帰り、前年の子「ハナ」、「ロン」、「スズ」の3羽も合流しました。「エミー」は「クロチャン」の2000年生まれの子で、雌「ダダ」は純系のアメリカコハクチョウの雄と番になり、2002年より行動を共にしており、2003年に

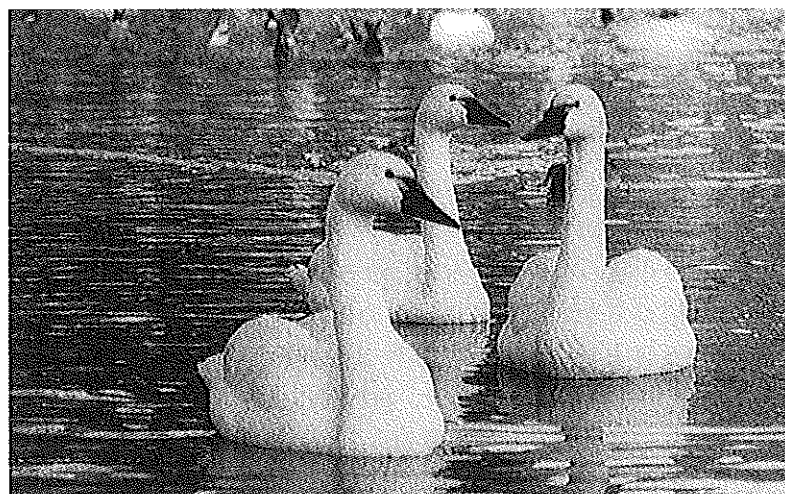


図2. 2003年エミー、ダダの子ハナ、ロン、スズ。



図3. 2004年エミー、ダダの子4羽。

幼鳥3羽、2004年には幼鳥4羽を連れて渡来越冬しました。前年の子3羽も、渡来越冬している3羽共黄色斑は小さく、他所で見れば、アメリカコハクチョウと識別されます(アメリカコハクチョウ×コハクチョウ×アメリカコハクチョウ)。「クロチャン」の子52羽のうち3羽(雄2羽、雌1羽)がアメリカコハクチョウと番になりました。番の「ヤマ」(雄)、「パール」(アメリカコハクチョウ雌)、子供2羽、番の「ナガレ」(雄)、「チビクロ」(アメリカコハクチョウ雌)、子供3羽、番の「エミー」(雌)、「ダダ」(アメリカコハクチョウ雄)、子供3羽(2003年)、子供4羽(2004年)の3組です。ヤマ家族とナガレ家族は、初子連れて1回だけの渡来越冬でした。2年目からは渡来せず、分家?したのでしょうか。エミー家族は2003年には子3羽、2004年には子4羽と続けて渡来越冬しました。「クロチャン」の後継ぎ?と思われます。初子3羽も渡来越冬しています。

4月5日大堤へこの日家族連れ「エミー」、「ダダ」の成鳥2羽と幼鳥4羽、「ヒロ」、「ケイ」の成鳥2羽と幼鳥2羽、「ルイ」、「ダンテ」の成鳥2羽と幼鳥4羽、「ゾロ」、「マーラ」成鳥2羽と幼鳥1羽の4家族と他に20羽ほどが飛来しました。「クロチャン」一族の中に「カアサン」を見つけました。2羽の幼鳥と親2羽と一緒に、思わず「カアサン」と叫びました。ポイント⑤ですぐわかり、「カアサン」は急いで泳いで来て、パンをくわえ、いつもの通り少し離れた所へ泳ぎ行き、食べ始めました。「クロチャン」の姿はなく、孫一家と一緒に、やばり生きていたんだと、秋より張りつけていた気持ちがほっとしました。南下の時見つけられなかったのが、北帰時はと毎日コハクチョウの群れを観察していいました。パンを食べると一休み、羽づくろいいつもの行動です。羽づくろいをすませると、西方向の田んぼへ一家と一緒に飛んでいきました。6日には観察できず、7日には早めに池に行き、ポイント①で「カアサン」を見つけました。5日より近い距離で写真を撮れましたが、「カアサン」は元気そうでした。その後は観察されませんでした。新堤では4月10日になると、「クロチャン」一族は1羽もいなくなり、北帰して行きました。大堤では4月20日に「エミー」、「ダダ」6羽が北帰し、21日最後の「ハナ」、「ロン」、「スズ」、「アンナ」も一緒に北帰の旅に出ました。池に残ったのはオオハクチョウだけでした。「カアサン」を確認でき、これで「クロチャン」の死亡が確実となりました。18年間の長期にわたり渡来越冬し、何も知られていない越冬地での事象、ハクチョウの行動、生態、幼鳥への教育など勉強させてもらい、毎年何か教えられた。亡き三上士郎先生の教え「教科書がきているのであなた達はしっかり勉強なさい」を心に銘じ、過ごした日々でした。「クロチャン」有難う、ゆっくり休んでください。

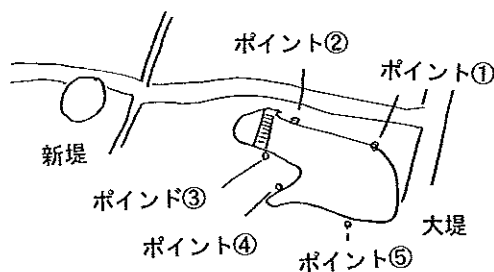


図4. 観察場所位置図。